

2024年度 神奈川大学エクステンション講座 実施記録

講座 テーマ	地学を楽しむ災害対策を考える		【講座趣旨】 能登半島地震は、M7.6の地震を想定できなかった反省が残りましたが、巨大な地震が大地を隆起し、陸地を産み出す事実も目の当たりにしました。また、現地を視察してみると、地域の耐震性の低さと、地盤による被害程度の差も全国的な課題と認識されました。そこで、今回のエクステンション講座では、関東平野、神奈川県の驚異の生い立ちを学ぶことをベースに、表層の地盤の問題、そして能登半島地震を踏まえて考える「耐震化」推進の問題を考えます。
期日	2024年11月16日・30日(土) 12月7日(土) 14:00～15:30	受講者数実績 39名 (うち「防災塾・だるま」会員5名)	受講料 4000円
	講師名	プロフィール	記録者コメント(鷲山龍太郎)
11/16	高橋雅紀	「日本海の拡大によって形成された関東平野下の巨大な基盤の凹み～」	第198回談義の会でご講演をいただいた高橋雅紀先生に、関東平野の誕生に焦点を当てたご講演をいただいた。1700万年前からの始まった日本列島の大陸からの分離による裂け目の位置が関東平野である。「山国誕生」の動力は太平洋プレート、騎手はフィリピン海プレートという高橋先生の比喩が面白い。山国日本列島を生み出してくれた両プレート、そしてその圧縮によって生まれる海溝型地震と内陸型地震と共存していく我がらが宿命を改めて認識することができた。
進行	鷲山龍太郎		
11/30	平田大二	神奈川県の生命の星・地球博物館名譽館員	神奈川県の古の岩石の誕生から、丹沢の衝突、大磯丘陵や、三浦半島の誕生、箱根火山の活動など、神奈川県の姿になってきた物語を豊富な画像でご説明いただいた。文明が発達すればするほど、被害は大きくなる(寺田寅彦)という言葉を用いて講義をまとめた。自然を知ること、適切な避難行動の必要を示された。防災の基本の一つが自然との共生であることを改めて理解できるご講義だった。
進行	高松清美		
12/7	荻本孝久	「能登半島地震現地視察からわかること～神奈川の地盤、あなたの家の地盤を知る～」	今年4月、荻本孝久先生と佐藤孝治先生と能登半島調査に同行させていただいたので、先生の地盤と被害を調査する視点を間近に学ばせていただいた。奥能登を行くと、岬と入江の繰り返しになるが、地盤が硬い岬の部分では、倒壊している家は少なく、地盤が軟弱であったり、砂地であったりする入江の集落には倒壊家屋が見られ、さらに津波が襲っている。耐震化推進も、特に地盤のよくない地域を優先すべきであるという先生の見解に共感する。先生が研究してきた神奈川県の地盤も、常時微動の調査から、川沿いの低地部には震度増幅が起きる軟弱地盤が多いことは、能登半島よりも深刻であり、地盤に対応した耐震化推進が地震防災の基本として極めて優先課題であると思われる。本会の提言としても発信していきたいところである。
進行	山田美智子		
12/7	河原典子	Kappa研築工房 河原一級建築士事務所主宰、一般社団法人 神奈川県建築士会 防災・災害対策委員、東京都木造住宅耐震診断技術者	1. 大地震でも命を守るには？地震に強い家とは？ 2. 新築時の耐震基準で変わる耐震性能(旧耐震・新耐震・2000年基準) 熊本地震でも能登半島地震でも、新耐震基準でも被害がかなり出ている実態が明らかになった。 3. 木造住宅の「耐震化」「耐震診断」「耐震改修工事」とは？ 4. 耐震性能を知るヒント、さまざまな「地震対策」 1) 誰でもできる「我が家の耐震診断」・地盤による揺れの大きさ 2) 防災ベッド/耐震シェルター・転倒家具の防止対策
進行	鷲山龍太郎		